

安全データシート (SDS)

1. 化学品及び会社情報

会社 ニチレキ株式会社
住所 東京都千代田区九段北4-3-29
担当部門 技術部
TEL 03(3265)1513
FAX 03(3265)5790
緊急連絡先 03(3265)1513

整理番号 05106

作成 2006 / 6 / 23
改訂 2022 / 5 / 16

製品名 レスキューパッチ
推奨用途及び使用上の制限 主用途として舗装用等

2. 危険物有害性の要約 (混合物のバイндаとして)

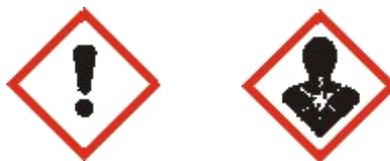
GHS分類:

皮膚腐食性/刺激性 : 区分2
眼に対する重篤な損傷生/眼刺激性 : 区分2B
皮膚感作性 : 区分1
発がん性 : 区分2
生殖毒性 : 区分1A
特定標的臓器毒性 (単回ばく露) : 区分2 (肝臓、呼吸器、腎臓、中枢神経系)
特定標的臓器毒性 (反復ばく露) : 区分2 (呼吸器、神経系)
水生環境有害性 短期 (急性) : 区分3
水生環境有害性 長期 (慢性) : 区分3

上記に記述がない危険有害性については、区分に該当しない、または分類できない。

GHSラベル要素

シンボル



注意喚起語 : 危険

危険有害性情報 : 皮膚刺激
眼への刺激性
アレルギー性皮膚反応を引き起こすおそれ
発がんのおそれの疑い
生殖能または胎児への悪影響のおそれ
臓器 (肝臓、腎臓、呼吸器、中枢神経) の障害のおそれ

長期または反復暴露による臓器（肺、呼吸器、神経系、血液系）の障害のおそれ
水生生物に有害
長期的影響により水生生物に有害

注意書き

- 【予防策】** 保護手袋を着用すること。
（必要なとき以外は）環境への放出を避けること。
この製品を使用する時に、飲食または喫煙をしないこと。
すべての安全注意を読み理解するまで取扱わないこと。
使用前に取扱説明書を入手すること。
取扱後は手をよく洗うこと。
必要に応じて個人用保護具を使用すること。
汚染された作業衣は作業場から出さないこと。
粉じん／ヒューム／ガス／ミスト／蒸気／スプレーの吸入しないこと。
- 【対応】** 皮膚についた場合：多量の水と石鹸で洗うこと。
皮膚刺激が生じた場合、医師の診断／手当てを受けること。
眼に入った場合：水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
眼の刺激が続く場合は、医師の診断／手当てを受けること。
暴露した場合：医師に連絡すること。
暴露または暴露の懸念がある場合：医師の診断／手当てを受けること。
気分が悪い時は、医師の診断／手当てを受けること。
汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯すること。
- 【保管】**
- ・換気の良い冷所で保管すること。
 - ・施錠して保管すること。
- 【廃棄】**
- ・内容物および容器を、都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物業者に、業務委託すること。

3. 組成および成分情報

化学物質・混合物の区別 混合物
化学名または一般名 全天候型常温混合物

成分名	含有量 (%)	化審法番号	CAS No.	国連番号分類
天然骨材	85～95	—	—	—
炭酸カルシウム	2～8	(1)-122	471-34-1	—

ストレートアスファルト	3～10	(9)-1720	8052-42-4	—
灯油	1.0以内	(9)-1702	64742-81-0	1223 クラス3
キシレン	1.0以内	(3)-3	1330-20-7	—

4. 応急措置

- 吸入した場合：
- ・新鮮な空気の場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させる。身体を毛布などでおおって保温して 安静を保ち、直ちに医師の手当てを受ける。
 - ・呼吸が止まった場合及び呼吸が弱い場合は衣服を緩め、呼吸気道を確保した上で人工呼吸を行う。
 - ・加熱時に一酸化炭素を発生する場合があります、吸入すると頭痛、めまい、吐き気等の症状を生じる場合がある。従って、汚染の可能性のある場所からは出来るだけ早く移動すると共に、そうした場所に入る場合には空気呼吸器を装着する。
- 皮膚に付着した場合：
- ・付着物を布で素早く拭き取る。
 - ・大量の水及び石鹼又は皮膚用の洗剤を使用して十分に洗い落とす。溶剤、シンナー等は使用しない。
 - ・外観に変化が見られたり、痛みがある場合には医師の診断を受ける。
- 眼に入った場合：
- ・大量の水で数分間注意深く洗う。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外し、その後も洗浄を続け、医師の手当てを受ける。
- 飲み込んだ場合：
- ・無理に吐かせないで、速やかに医師の診断を受ける。口の中が汚染されている場合には、水で十分に洗う。

急性症状及び遅延性

- 症状の最も重要な兆候：
- ・今のところ有用な情報はなし。
- 応急処置をする者の保護：
- ・今のところ有用な情報なし。
- 医師に対する特別な注意事項：
- ・今のところ有用な情報なし。

5. 火災時の措置

- 特有の消火方法：
- ・火元への燃焼源を断つ。
 - ・初期の火災には粉末、炭酸ガスを用いる。
 - ・大規模火災の際は泡消火剤を用い空気を遮断することが有効である。
 - ・周囲の設備などは散水して冷却する。
- 適切な消火剤：
- ・霧状の強化液、泡、炭酸ガス、粉末が有効である。
- 使ってはならない消火剤：
- ・棒状の水は火災を拡大し、危険な場合がある。
- 火災時の特有な危険有害性：
- ・硫化水素／一酸化炭素を発生する場合がある。
- 消火を行う者の保護：
- ・消火作業は風上から行い、必ず保護具を着用する。

6. 漏出時の措置

- 人体に対する注意事項：
- ・作業の際には消火用保護具を着用する。
- 環境に対する注意事項：
- ・下水道、河川等に流出し、二次災害・環境汚染を起こさないように注意する。
 - ・漏洩時は事故の未然防止及び拡大防止を図る目的で、速やかに

- 関係機関に通報する。
- 除去方法：
- ・多量に漏出した場合、関係者に通報する
 - ・全ての着火源を取り除き、漏洩箇所の漏れを止める。
 - ・危険地域より人を退避させる。危険地域の周辺にはロープを張り、人の立ち入りを禁止する。
- 二次災害の防止：
- ・漏洩物を速やかに完全撤去、清掃を行う。
 - ・消火用器材を準備する。

7. 取扱いおよび保管上の注意

取扱い：

- 技術的対策：
- ・火気厳禁。炎、火花、高温体との接触、その他点火源となる恐れのある機械等の使用を禁止する。
 - ・取扱いは換気の良い場所で行ない、状況によって保護眼鏡、保護マスク、保護手袋を使用する。
 - ・取扱い後は、手洗いを充分に行なう。
- 注意事項：
- ・室内で取り扱う場合は、十分換気する。
- 安全取扱い注意事項：
- ・製品を落下させたり、破袋させたりしない。

保管：

- 安全な保管条件：
- ・冷暗所に保管する。
- 適切な技術対策：
- ・消防法などの法令に定める所に従う。
- 注意事項：
- ・日光の直射を避ける。
 - ・屋内の通風の良いところに保管する。
- 容器包装材料：
- ・破袋させない。

8. 暴露防止措置

- 設備対策：
- ・屋内作業場は、排気装置を設置する。
 - ・取扱い所の近くに、洗眼及び身体洗浄のための設備を設置する。
- 管理濃度：
- ・キシレン 50ppm（厚生労働省）
- 許容濃度：
- ・キシレン 50ppm（日本産衛学会）
150ppm（ACGIH）

保護具：

- 呼吸用の保護具：
- 防毒マスク（有機ガス用）などの呼吸器用保護具
濃度が高い場合は送気マスク、空気呼吸器等
- 手の保護具：
- 耐油性（不浸透性）の手袋
- 眼の保護具：
- 保護眼鏡、ゴーグル又は防災面
- 皮膚及び身体の保護具：
- 状況に応じて長靴、前掛け（静電気防止対策用）

9. 物理的および化学的性質

物理的状态

- 物理状態：
- 最大粒径5mmの常温アスファルト混合物
- 色：
- 黒色
- 臭い：
- 溶剤臭

物理的状态が変化する特定温度／温度範囲

- 融点／凝固点：
- データなし
- 沸点又は初留点及び沸点範囲：
- データなし

可燃性：	データなし
爆発限界／可燃限界：	データなし
引火点：	124℃（骨材を除くバインダとして）
自然発火点：	データなし
分解温度：	データなし
pH：	データなし
動粘性率：	データなし
溶解度：	水に不溶
n-オクタノール／水分配係数（log値）：	データなし
蒸気圧：	データなし
密度及び／又は相対密度：	2.3～2.6 g/cm ³ (締め固めた混合物の密度は1.9～2.0g/cm ³ 程度)
相対ガス密度：	データなし
粒子特性：	データなし

10. 安定性及び反応性

化学的安定性：	通常の手扱い条件においては安定である。
反応性：	現在のところ有用な情報はなし。
危険有害反応可能性：	強酸化剤と激しく反応し、火災や爆発の危険をもたらす可能性がある。
避けるべき条件：	加熱 蒸気は空気より重く、低所に滞留し揮発性混合ガスを作る。
避けるべき材料：	酸化剤。
危険有害な分解生成物：	現在のところ有用な情報はなし。
混触危険物質：	酸化性物質と接触しないよう注意する。

11. 有害性情報

急性毒性：	経口 ラット LD50 5000 mg/kg以上。 (石油炭化系水素)
	吸入（ミスト） ラット LC50=2.18mg/L
皮膚腐食性／刺激性：	(キシレン) ウサギの皮膚に適用した試験において「皮膚刺激性がある」と考えられ、区分2に分類した。
眼に対する重篤な 損傷性／眼刺激性：	ドレイズテストの結果、軽度の刺激性有り。 加熱時にアスファルトから発生するガスは、呼吸器系や眼の粘膜を刺激する。
呼吸器感受性：	現在のところ有用な情報はなし。
皮膚感受性：	モルモットに対する皮膚感受性試験結果で陰性との報告あり。
生殖細胞変異原性：	データなし。
発がん性：	(灯油) IARC 45(1989)ではJet fuel(kerosene, 8008-20-6)およびDistillate (light) fuel oilsがグループ3に分類されている)が、ACGIH(2001)ではkerosene/Jet fuelsがA3に分類されている)
生殖毒性：	現在のところ有用な情報はなし。
特定標的臓器毒性 (単回ばく露)：	黒ネズミに対して針入度級アスファルトを3ヶ月毎に200mg皮下注射したが、

解剖所見では皮膚腫瘍は見られなかった。	
特定標的臓器毒性 (反復ばく露) :	アスファルトヒュームの吸入試験(マウス、6~7h/日、5日/週で21ヶ月)で気管浸潤、気管支炎、肺炎、腫瘍、繊毛損失、上皮萎縮および皮膚肥厚が認められた。
誤えん有害性 :	データなし。
その他 :	加熱時に発生するガスを吸入すると、嘔吐やめまいを起こすことがある。

1 2 . 環境影響情報

生態毒性 :	有用な情報なし。
残留性・分解性 :	発生したヒュームはすぐに凝縮、沈降して土壤に吸着する。 アスファルトは水中で分散性に乏しく、土壤中で移動性はない。
生体蓄積性 :	極めて水に難溶であり、高分子量であるため、水中生物の体内に取り込まれるとは考えにくい。
土壤中の移動性 :	なし。
オゾン層への有害性 :	不明

1 3 . 廃棄上の注意

- ・ 廃材料、容器の廃棄物は、許可を受けた産業廃棄物処理業者と委託契約をして処理をする。
- ・ 容器、機械装置を洗浄した排水等は、地面や排水溝へそのまま流さない。
- ・ 廃水処理、焼却等により発生した廃棄物についても、廃棄物の処理及び清掃に関する法律及び関係する法規に従って処理を行うか、委託する。

1 4 . 輸送上の注意

輸送上の注意

陸上 :	消防法	指定可燃物 (可燃性固体類)
海上 :	船舶安全法	非危険物
航空 :	航空法	非危険物
国連分類 :	該当しない	

安全対策および条件 : 輸送の際は破袋のないことを確かめて、損傷、荷崩れ等の防止を確実にを行う。
その他関係法令の定めるところに従う。

1 5 . 適用法規

消防法 :	指定可燃物 (可燃性固体類)
労働安全衛生法 :	表示対象物 (通知対象物) アスファルト
海洋汚染防止法 :	油分排出規制
下水道法 :	鉱油類排出規制
水質汚濁防止法 :	油分排出規制
廃棄物の処理および清掃に関する法律 :	産業廃棄物規則

16. その他の情報

引用文献

- | | |
|--|------------|
| ・ 14102の化学商品 | 化学工業日報者 |
| ・ 化学物質の危険，有害便覧 | 中央労働災害防止協会 |
| ・ 知っておきたい職場の化学物質 | 中央労働災害防止協会 |
| ・ GHS対応による混合物（化学物質）のMSDS作成手法の研修テキスト（改訂版） | 中央労働災害防止協会 |
| ・ 製品安全データシートの作成指針 | 日本化学工業協会 |

製品安全データシートは、危険有害な化学製品について、安全な取扱いを確保するための参考情報として、取り扱う事業者提供されるものです。

取り扱う事業者は、これを参考として、自らの責任において、個々の取扱い等の実態に応じた適切な処置を講ずることが必要であることを理解した上で、活用されるようお願いします。従って、本データシートそのものは、安全の保証書ではありません。